

2. 流域および河川の自然環境

2.1 流域の自然環境

流域は、愛媛県のほぼ中央部に位置し、流域のほぼ70%が山地となっている。中流域から下流域にかけては道後平野の扇状地を形成し、松山市街地の南部を西流し伊予灘に注いでいる。河口部には、ヨシ原の生育する中洲や干潟が形成され、四国でも有数の渡り鳥の中継地となっている。

また、重信川は河口部でも河床勾配が1/940程度と急流河川であり、上流域の山地は荒廃しているため土砂生産量が多い。扇状地では河川水が伏流し、中流域では流水が少なく、瀬切れが年間の半分以上の期間発生している。一方、河川沿いには湧水箇所が多く分布し、泉として利用されるとともに、豊かな環境を創出している。

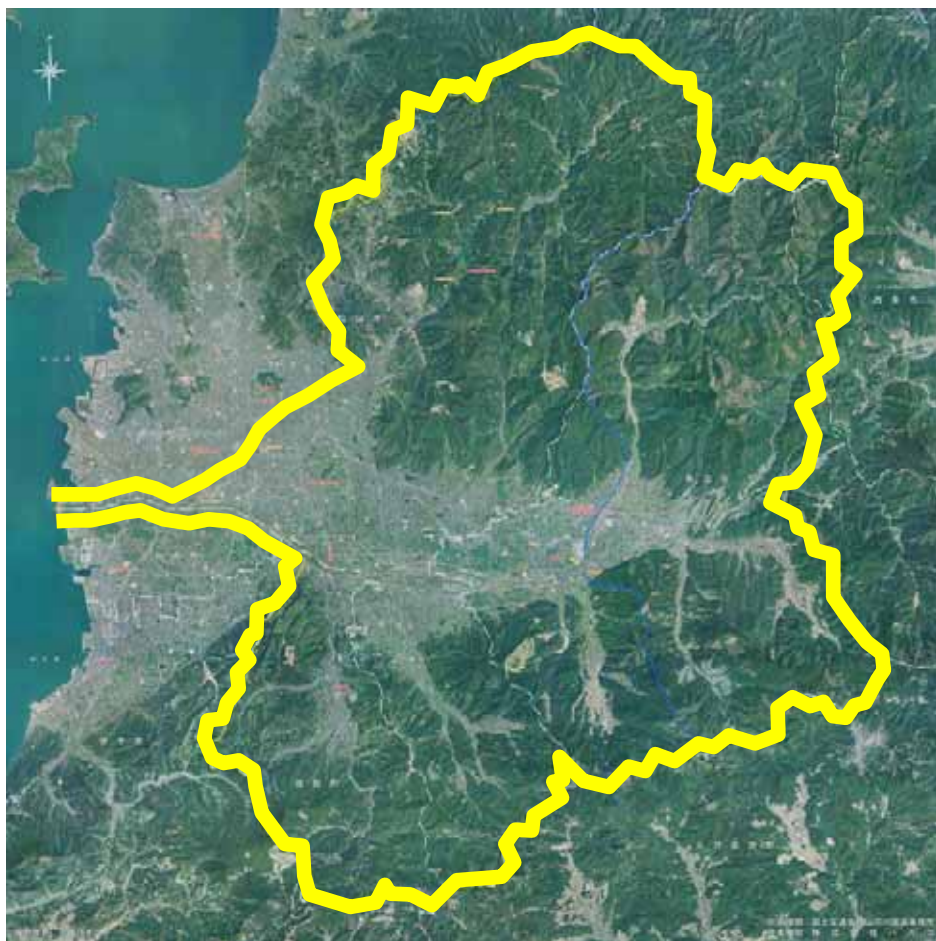


図 2.1.1
重信川流域の写真



図 2.1.2 中流域の各所に点在する泉（赤坂泉）
あかさかいずみ



図 2.1.3 河口部のカモ類の群れ

2. 1. 1 上流域（源流～表川合流点）

重信川の上流域は、大部分がスギ・ヒノキ等の人工林で占められているが、山稜付近にはブナ林など天然林もみられる。支川の石手川上流域は奥道後玉川県立自然公園に、拝志川上流域は皿ヶ嶺連峰県立自然公園に指定されている。

上流域の山地溪流には、カジカガエルが生息し、オオタカ、ハヤブサ等の猛禽類やヤマセミなどの鳥類も周辺域に生息する。また、ニホンジカ、ニホンザルも山地を中心に生息している。



図 2. 1. 4 上流域

2. 1. 2 中流域（表川合流点～石手川合流点）

重信川の中流域は、広い川幅を有した広大な河川空間を形成しているが、しばしば瀬切れが生じている。

沿川では三ヶ村泉、赤坂泉など伏流水を利用した泉が多く存在している。河原では清冽な湧水があるところにイシドジョウ等の魚類が生息している。



図 2. 1. 5 中流域

2. 1. 3 下流域（石手川合流点～河口）

下流域は水田や畑地が広がるものの、近年市街化が進んでいる。河口に近い区間では事業所や工場等が多く点在している。植生は自然植生がほとんど存在せず、耕作地と周辺の雑草群落が主たる植生である。

水域には、コイ、タナゴ等の魚類、河口のヨシ群落には、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類が生息している。河口干潟は、ハマシギ等の鳥類の重要な中継地となっている。



図 2. 1. 6 下流域

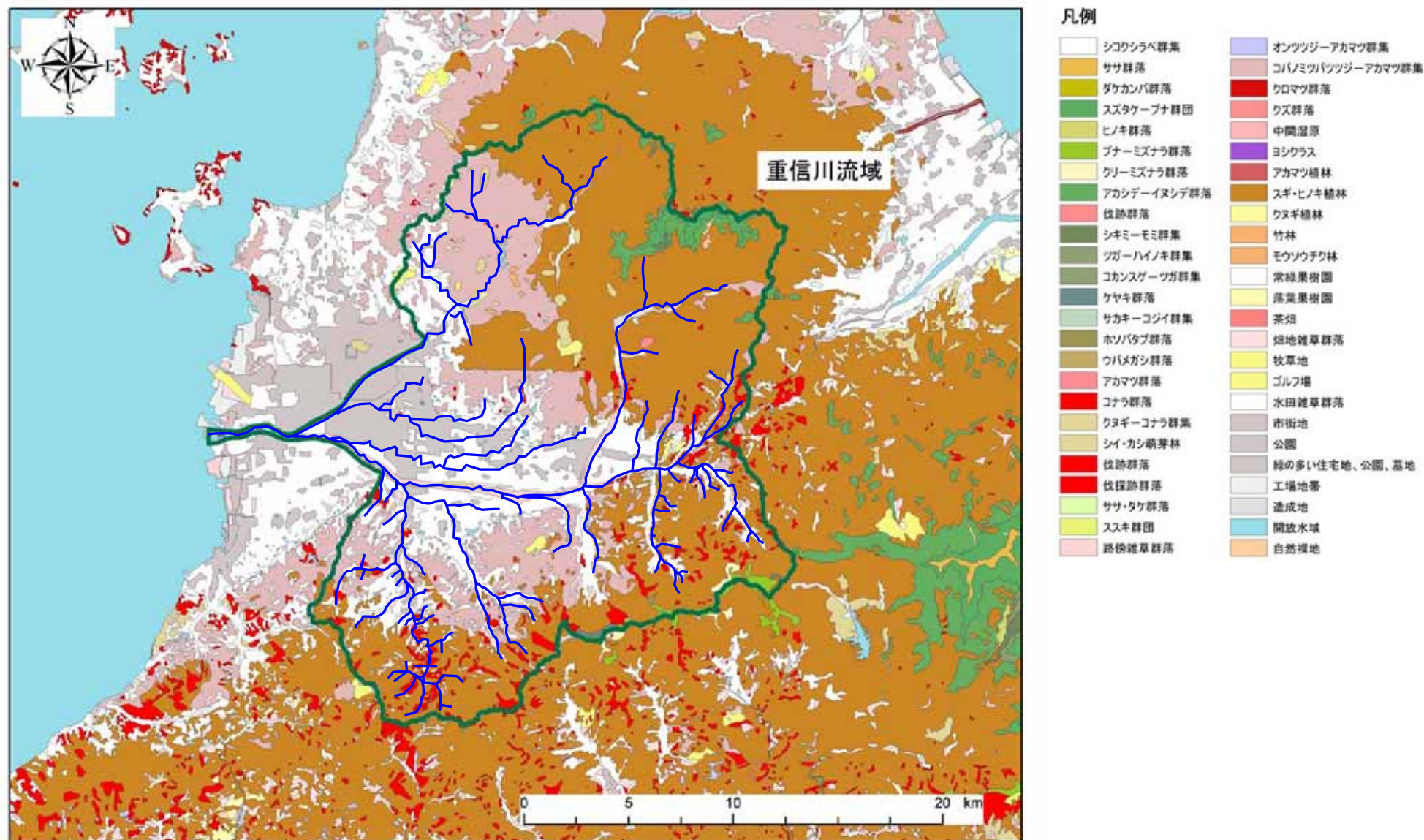


図 2.1.7 重信川流域の植生

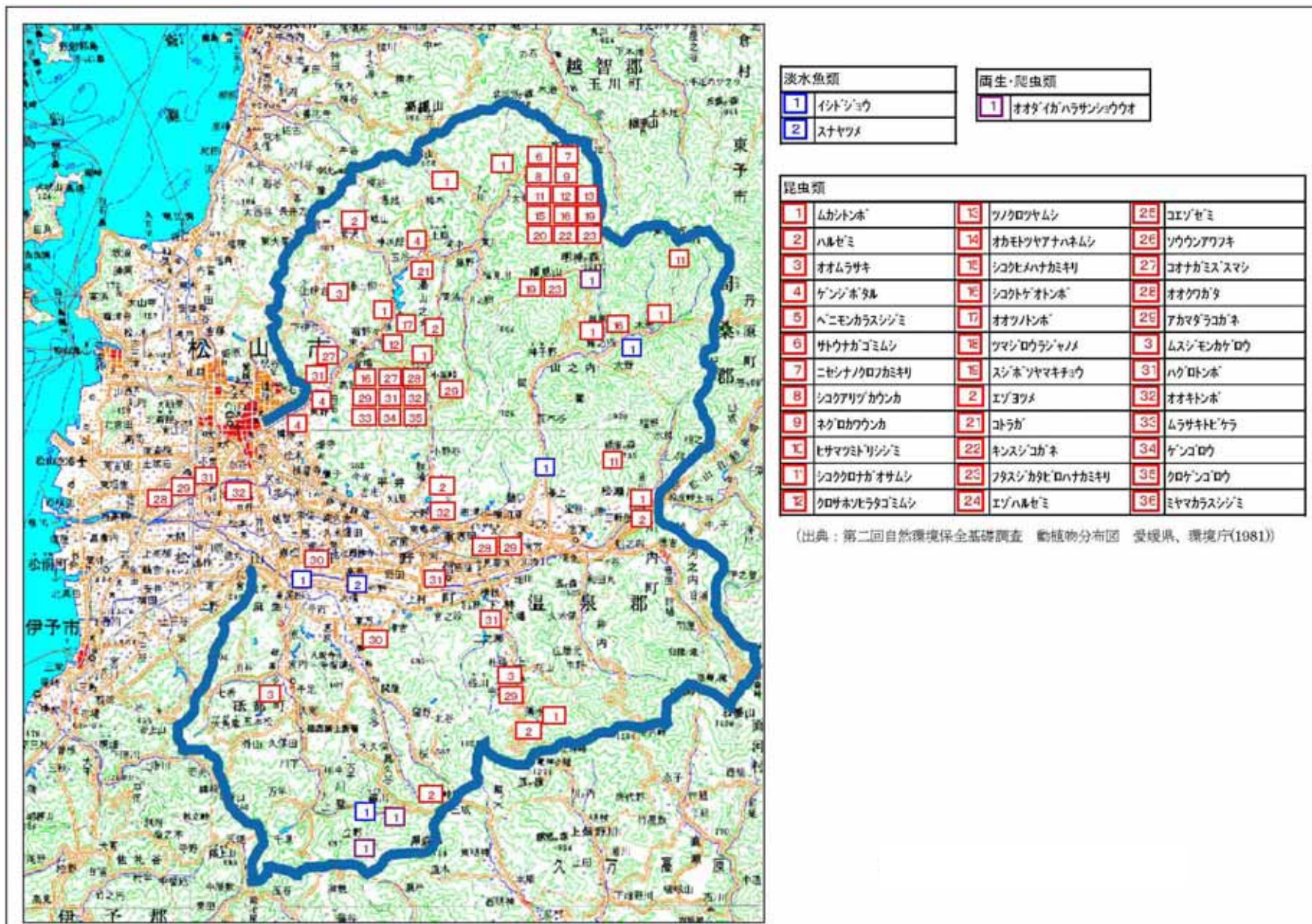


図 2.1.8 重信川流域の動物

2.2 河川の自然環境

重信川は、源流から表川合流点までの「上流域」、表川合流点から石手川合流部までの「中流域」、石手川合流部から河口までの「下流域」に大別される。

2.2.1 上流域

重信川の上流域は大部分がスギ・ヒノキを主体とする人工林であるが、標高 1,000m 前後の山稜部には自然度の高い植生もみられる。河川には、アマゴ、カワヨシノボリ、イシドジョウなどの魚類、両生類のカジカガエルなど水質が清冽な箇所に生息する種が生息している。また、周辺には昆虫類のハルゼミ、ムカシトンボ、オオムラサキなど貴重性の高い種や自然度の高さを示す指標となる種も多くみられる。

支川石手川のダム湖周辺でも、ニホンヒキガエル、シュレーゲルアオガエルなどの両生類、ジムグリ、ヤマカガシなどの爬虫類、ムカシトンボ、ハルゼミなどの昆虫類、エビネ、キセワタなどの植物といった重要な種が多く生息生育している。



カワヨシノボリ



オオムラサキ（環境省 準絶滅危惧）



カジカガエル

（レッドデータブックまつやま 準絶滅危惧）



ジムグリ

（愛媛県レッドデータブック 低地減少種）

図 2.2.1 重信川上流域の動物

2.2.2 中流域～下流域

山間部を抜け扇状地から平地部にかけては重信川は川幅も広くなり、流水は伏流し、中流域では年間の半数以上で瀬切れが生じている。

魚類は、瀬ではオイカワ、シマヨシノボリなど、ヨシ帯の水際やワンドではドンコ、フナ類などが多く生息している。砥部川合流点付近では湧水が多くみられ、周辺では重要な種のイシドジョウやスジシマドジョウ中型種などが生息している。また、重信川では安定した淵が少ないものの、^{てあいばし}出合橋付近に形成されている淵では、アブラボテ、ヤリタナゴなどのタナゴ類も生息している。

底生動物は表川合流点に近い場所では、カワゲラ類、トビケラ類、ヘビトンボ類などが比較的多く生息しているものの、流下するに従いミミズ類、ハエ類、カゲロウ類などを中心とする底生動物相となっている。

植物は、河道内ではツルヨシ群落を中心とするヨシ・オギ群落やカワラヨモギ・カワラハハコ群落などの砂礫地植生が広がっている。また、高水敷ではセイタカアワダチソウ群落、ススキ群落、クズ群落や帰化植物のオオオナモミ群落、シナダレスズメガヤ群落などもみられる。河畔林を形成する樹林は比較的少なく、表川合流点付近や下流域に近い区間の一部で、まとまったムクノキ・エノキ林がみられる。

鳥類は、川原の砂礫地ではハクセキレイやキセキレイ、ヨシ帯や周辺域などではヒヨドリ、セッカ、オオジュリンなどの他、ヒクイナも生息している。

両生類は、上流域に近い区間ではカジカガエルが生息する。哺乳類ではアカネズミが広く生息する他、ヨシ原ではカヤネズミが営巣している。昆虫類は、砂礫地や草地が広がっていることから、バッタ類やゴミムシ類が多く生息している。



イシドジョウ (環境省 絶滅危惧 IB 類)



ハクセキレイ



ヤリタナゴ
(愛媛県レッドデータブック 絶滅危惧 IB 類)



スジシマドジョウ中型種
(愛媛県レッドデータブック 絶滅危惧 I 類)

図 2.2.2 重信川中流域～下流域の動物

2. 2. 3 河口部

重信川の河口部は、広大な干潟が広がり、干潟上には塩沼性植生やヨシ原を中心とした特徴ある植生が形成されている。

魚類は、ハゼ類やタイ科魚類、ボラ、スズキ等、汽水性魚、海産魚が中心の魚類相となっており、クボハゼ、ヒナハゼなどの重要な種が生息する。また、早春季にはシロウオの遡上もみられる。

底生動物は砂質干潟に生息するハクセンシオマネキやヨシ原に多く生息するアシハラガニなど多くのカニ類や、イシマキガイ、ウミナナ、カワグチツボ等の特定種の貝類も多く生息する。

植物はハマサジ・ハマエンドウなどの海浜植物や、塩沼性植生など、河口部特有の植物相がみられる。

重信川河口部は、環境省のシギ・チドリ類の重要渡来地域及び環境省の重要湿地 500 として指定されており、ハマシギ、クサシギ、コチドリ等の多くのシギ・チドリが渡りの中継地点として利用している。また、ヨシガモ、ヒドリガモなどのカモ類が越冬期に数多く確認できる。一方、猛禽類のミサゴは河口部を重要な餌場として利用しているなど、多くの鳥類の生息にとって重要な場所となっている。



クボハゼ（環境省 絶滅危惧 IB 類）



アシハラガニ



ハクセンシオマネキ（環境省 準絶滅危惧）



ヨシガモ

図 2. 2. 3 重信川河口部の動物

2.2.4 重信川における重要な種

既往の重信川河川水辺の国勢調査、石手川ダム水辺の国勢調査、直轄砂防区域自然環境調査等において確認された種のうち、環境省レッドデータブック等、愛媛県レッドデータブック、レッドデータブックまつやまにおける掲載種を重要な種として抽出した。

表 2.2.1 重要な種の選定根拠

○文化財保護法、文化財保護条例における国、都道府県、市町村指定の天然記念物
○絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律における国内希少野生動植物 および緊急指定種
○自然公園法による指定植物
○環境省編 日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック
○環境省編 レッドリスト
○愛媛県レッドデータブック
○レッドデータブックまつやま

表 2.2.2 既往調査でこれまでに確認された重要な種

調査項目	河川水辺の 国勢調査	ダム国勢調査	上流域砂防 区間調査	計
魚類	16	—	3	16
底生動物	15	4	7	19
植物	28	20	17	59
鳥類	19	12	14	32
両生類・は虫類・ほ乳類	8	9	12	15
陸上昆虫類	16	8	15	30
計	102	53	68	171

<備考1 各調査について>

- ・ 河川水辺の国勢調査：平成3年～平成16年
- ・ ダム河川水辺の国勢調査（石手川ダム）：平成3年～平成16年
- ・ 上流域直轄砂防管理区間調査：平成10年～平成15年

<備考2 種数のカウントについて>

各調査で重複して確認された種は合計の際、1種としてカウントした。

【魚 類】

表 2.2.3 重信川流域で確認された魚類の重要な種一覧表

No.	種 名	天然記念物	種の保存法	環境省 RDB	愛媛県 RDB	松山市 RDB	重信川			石手川	
							河口部 (0～1.0km)	中流部 (1.0～17.2km)	上流部 (17.2km<)	中流部 (0.0～3.3km)	石手川ダム
1	オオキンナ				DD			●			
2	ヤリタナゴ				EN	CR+EN		●			
3	アブラボテ				CR+EN	CR+EN		●			
4	ウグイ				LP		●				
5	モツゴ				NT	NT		●			
6	タモロコ				NT	NT		●			
7	トシヨウ				NT	NT		●	●		
8	イトシヨウ			EN	EN	CR+EN		●	●		
9	スシマトシヨウ中型種				CR+EN	CR+EN		●			
10	ナマス					NT		●	●		
11	メダカ			VU	VU	VU	●	●			
12	カワアナゴ				NT	VU		●			
13	シロウオ			NT	VU	VU	●				
14	クボハゼ			EN	EN	CR+EN	●				
15	ヒナハゼ					NT	●				
16	シモフリシマハゼ					NT	●				

【底生動物】

表 2.2.4 重信川流域で確認された底生動物の重要な種一覧表

No.	種 名	天然記念物	種の保存法	環境省 RDB	愛媛県 RDB	松山市 RDB	重信川			石手川	
							河口部 (0～1.0km)	中流部 (1.0～17.2km)	上流部 (17.2km<)	中流部 (0.0～3.3km)	石手川ダム
1	イシマキガイ					NT	●				
2	ウミニナ				NT	NT	●				
3	カワクチツボ				CR+EN		●				
4	モノアラガイ			NT				●			
5	ナカオカモノアラガイ			NT				●			
6	オオガイ				NT	NT	●				
7	ソトリガイ					NT	●				
8	ミナミヌマエビ				NT	NT		●	●		●
9	ハクセンシオマネキ			NT	NT	NT	●				
10	オオカワトンボ				CR+EN	CR+EN			●		
11	ムカシトンボ					NT			●		
12	ミヤマサナエ				NT			●	●		
13	キイロサナエ				NT			●	●		
14	キタミドリケラ					CR+EN					●
15	クロツツミケラ					CR+EN			●		●
16	マイコアカネ							●			
17	ヨコソトロムシ			CR+EN				●			
18	ケンジボタル					NT		●	●		●
19	ヘイケボタル					CR+EN		●			

【両生・爬虫・哺乳類】

表 2.2.5 重信川流域で確認された両生類・爬虫類・哺乳類の重要な種一覧表

No.	種 名	天然記念物	種の保存法	環境省 RDB	愛媛県 RDB	松山市 RDB	重信川			石手川	
							河口部 (0～1.0km)	中流部 (1.0～17.2km)	上流部 (17.2km<)	中流部 (0.0～3.3km)	石手川ダム
1	イモリ				低地減少種	CR+EN		●	●		●
2	トノサマガエル				VU	CR+EN			●		
3	シュレーゲルアオガエル					NT		●	●		●
4	カシカガエル					NT		●	●		●
5	クサカメ					NT		●			
6	ジムグリ				低地減少種	DD					●
7	シロマダラ				低地減少種	NT			●		
8	ヒバカリ				低地減少種	NT			●		
9	ヤマカガシ				低地減少種	VU		●	●		●
10	マムシ				低地減少種	DD		●	●		●
11	ノウスギ					NT	●		●		●
12	ムササビ					NT			●		
13	スミスネズミ					NT			●		●
14	カヤネズミ					NT	●	●	●		
15	ニホンシカ					VU					●

【鳥 類】

表 2.2.6 重信川流域で確認された鳥類の重要な種一覧表

No.	種 名	天然記念物	種の保存法	環境省 RDB	愛媛県 RDB	松山市 RDB	重信川			石手川	
							河口部 (0～1.0km)	中流部 (1.0～17.2km)	上流部 (17.2km<)	中流部 (0.0～3.3km)	石手川ダム
1	ミソコイ			NT	NT	NT					●
2	ササコイ				NT			●	●	●	●
3	チュウサギ			NT	NT	NT	●	●			
4	アカツクシガモ			DD		EN	●				
5	ツクシガモ			EN	EN	EN	●				
6	オトリ					NT					●
7	トモエガモ			VU	VU	VU	●				
8	ミサコ			NT	NT	NT	●				
9	ハチクマ			NT	NT	NT			●		●
10	オオタカ		希少	VU	VU	VU	●	●	●		
11	ツミ				NT	NT			●		●
12	ハイタカ			NT	NT	NT		●	●		●
13	サンバ				NT	NT			●		●
14	ハイロチョウヒ				VU			●			
15	チュウヒ			VU	VU	VU	●				
16	ハヤブサ		希少	VU	VU	VU	●	●	●		
17	ヤマトリ				NT	NT			●		
18	ヒクイナ				NT		●	●			
19	タマシギ				NT			●			
20	ホウロクシギ			VU	VU	VU	●				
21	スズクシガモ			VU	EN	VU	●				
22	コアシサシ			VU	EN	EN	●	●			
23	アオバヅク				NT	NT					●
24	トラフスズク				NT			●			
25	ジュウイチ				VU				●		
26	ヒンズイ				VU		●		●		
27	コマドリ				NT				●		
28	ルリビタキ				NT				●		●
29	ホソソムシクイ				NT				●		●
30	エゾムシクイ				VU				●		●
31	サンコウチョウ				NT	NT			●		●
32	ホオアカ				NT			●			

【陸上昆虫類】

表 2.2.7 重信川流域で確認された陸上昆虫類の重要な種一覧表

No.	種 名	天然記念物	種の保存法	環境省 RDB	愛媛県 RDB	松山市 RDB	重信川			石手川	
							河口部 (0～1.0km)	中流部 (1.0～17.2km)	上流部 (17.2km<)	中流部 (0.0～3.3km)	石手川ダム
1	ゴホントケサトウムシ				NT	DD			●		
2	ヒトハリサトウムシ				NT	NT	●	●	●	●	
3	ワスレナグモ			NT				●			
4	ホソミイトンボ				CR+EN				●		
5	オオカワトンボ				CR+EN	CR+EN		●			
6	ムカシトンボ					NT					●
7	ハネビロエゾトンボ				CR+EN	NT		●			
8	マイコアカネ					NT		●			
9	タンボオカメオロギ				NT		●				
10	クツワムシ					NT					●
11	カワラハッタ					VU	●	●	●		
12	ショウリョウハッタモドキ					DD		●	●		
13	チツチセミ					NT			●		
14	ハルセミ					VU					●
15	コオイムシ			NT				●			
16	ミイテラゴミムシ					NT		●	●	●	●
17	スシケンゴロウ			CR+EN	EX				●		
18	コカブトムシ					NT			●		
19	シラホシハナムケリ					VU		●	●		
20	オオシロカミキリ				NT					●	
21	ニッポンヒゲナガハナバチ					NT	●	●			
22	クロツツヒケラ					CR+EN		●			
23	オオチャバネセリ					NT			●		
24	キマダラモドキ			NT					●		●
25	クロヒカゲモドキ			VU					●		
26	メスグロヒョウモン				NT	NT			●		●
27	ウラキンスジヒョウモン				NT	VU			●		
28	クモカダヒョウモン					NT			●		●
29	ツマクロキチョウ			VU	VU	CR+EN		●			
30	オオムラサキ			NT	NT	NT			●		●

【植 物】

表 2.2.8 重信川流域で確認された植物の重要な種一覧表

No.	種 名	天然記念物	種の保存法	環境省RDB	愛媛県RDB	松山市RDB	重信川			石手川	
							河口部 (0～1.0km)	中流部 (1.0～17.2km)	上流部 (17.2km～)	中流部 (0.0～3.3km)	石手川ダム
1	ハコネシダ					DD			●		
2	ミドリヒメワラビ				EN	CR					●
3	ハンノキ				EN				●		
4	アカソ				VU				●		
5	アキノミチヤナギ				NT	VU	●				
6	イソボウキギ					VU	●				
7	ハママツナ					VU	●				
8	ニッケイ			NT					●		
9	クロフネサイシン			VU		DD			●		
10	コケオトギリ					EN			●		
11	コイスガラシ			NT	NT	VU		●			●
12	メノマンネングサ				DD					●	
13	ツグシチャルメルソウ			VU	DD						●
14	タコノアシ			VU	VU	DD					●
15	カララサイコ				VU			●			
16	カスミサクラ				DD		●				
17	カララケツメイ				DD			●		●	
18	イヌハギ			VU	DD	DD		●			
19	ツリフネソウ				NT				●		
20	ケンボナシ				DD				●		
21	アマツル				VU			●	●		
22	ミスマツバ			VU	NT	VU		●			●
23	ハマセリ				VU	CR	●				
24	ハマサシ			VU		VU	●				
25	ナガバシユスネノキ				NT						●
26	マメタオシ				DD	EX	●	●		●	
27	カワミドリ				VU	EN					●
28	キセウタ			VU	EN	EN					●
29	シロネ				NT	EN		●			
30	ミゾコウジュ			NT		NT		●			●
31	イカホオスキ				VU	CR					●
32	サウトウガラシ					NT					●
33	カワチヤ			NT		NT		●		●	●
34	イワキリソウ			EN	VU				●		
35	カララハハコ				EN	DD		●			
36	カララニンジン				DD			●			
37	ウラギク			VU	VU	EN	●				
38	サウオグルマ				VU	DD			●		
39	タムラソウ				DD	DD			●		
40	オナモミ				DD	DD					●
41	ヤナギモ					VU				●	
42	イトモ			VU	NT	VU		●			
43	ミヤマナルコユリ				VU	DD			●		
44	ヒメナヘフリ				VU	DD					●
45	イワナガリヤス				VU						●
46	ウシノツバ				VU	DD		●			
47	ケカモノハシ					DD	●				
48	サヤヌカグサ					DD					●
49	オオネスミカヤ				VU				●		
50	オニシハ					DD	●				
51	ナガミノオニシハ					NT	●				
52	ハタカヤ					EN		●			
53	シオクク					VU	●				
54	アセスゲ				EN				●		
55	ヒメヒラテツキ					DD					●
56	エビネ			VU	VU	EN			●		●
57	キンラン				VU	DD					●
58	オニノヤガラ				EN	DD			●		
59	ムヨウラン				VU						●

＜特定種凡例一覧＞

- 1) 文化財保護法、文化財保護条例における国、都道府県、市町村指定の天然記念物
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- 2) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律における国内希少野生動植物および緊急指定種
特希：特定国内希少野生動植物種。希少：国内希少野生動植物種
- 3) 自然公園法による指定植物
石鎚^{いしづち}：石鎚国定公園
- 4) 環境省編 日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック
CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- 5) 環境省編 レッドリスト
CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
- 6) 愛媛県レッドデータブック
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、低地減少種：愛媛県独自カテゴリー
- 7) レッドデータブックまつやま
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

2.2.5 重信川の代表種

表 2.2.9 区間別環境要素と河川環境を特徴づける種(上流域)

流域区分	河川区分	環境要素		調査項目	生息生育する主な代表種				
					特定種	指標種			
						上位性	典型性	移動性	特殊性
上流域	上流部	溪流	水域	魚介類	ドシヨウ、イシトシヨウ、ナマス	—	タカハヤ、アマコ	オオヨシノボリ	イシトシヨウ
				底生動物	ミナミヌマエビ、オオカワトンボ、ムカシトンボ、ミヤマサナエ、キイロサナエ、クロツツトビケラ、ケンシボタル	—	サワガニ	—	—
			陸域	植物	ハコネシダ、ハンノキ、アカソ、ニッケイ、クロフネサイシン、コケオトギリ、ツリフネソウ、ケンボナシ、アマヅル、イワギリソウ、サワオグルマ、タムラソウ、ミヤマナルコユリ、オオネズミガヤ、アゼスゲ、エビネ、オニノヤガラ	—	ウラボシ、コンタ、コナラ、シロモシ、フキ	—	—
				鳥類	ササコイ、ハチクマ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ、ヤマドリ、ジュウイチ、ヒンズイ、コマドリ、ルリビタキ、メボソムシクイ、サンコウチョウ	カワセミ、ヤマセミ、チュウサキ	ヤマセミ	—	—
				両爬哺	イモリ、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、カシカガエル、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、マムシ、ノウサギ、ムササビ、スミスネズミ、カヤネズミ	—	カシカガエル、タゴガエル、ニホンイノシシ	—	—
				陸上昆虫類	ゴホントゲサトウムシ、ヒトハリサトウムシ、ホソミイトトンボ、カララハツタ、ショウリョウバッタモドキ、チツセミ、ミイデラゴミシ、スジゲンゴロウ、シラホシハナムグリ、オオチャハネセセリ、クロヒカゲモドキ、メスグロヒョウモン、ウラギンズシヒョウモン、クモガタヒョウモン、オオムラサキ	—	ミヤマカワトンボ、モンキマメゲンゴロウ、ミカトフキハツタ、ハグロトンボ	—	—
		ダム	水域	魚介類	—	—	コイ、ゲンゴロウブナ	—	—
				底生動物	ミナミヌマエビ、キタガミトビケラ、クロツツトビケラ、ケンシボタル	—	サワガニ	—	—
			陸域	植物	ミドリヒメワラビ、コイスカガラシ、ツクシチャルメルソウ、タコノアシ、ミズマツバ、ナガバシユズネノキ、カワミドリ、キセウタ、ミジコウジュ、イカホオズキ、サワトウガラシ、カワチシヤ、オナモミ、ヒメナベワリ、イワノカリヤス、サヤスカサ、ヒメヒラテンツキ、エビネ、キンラン、ムヨウラン	—	コシタ、ツビラシイ、シリブカガシ、アカガシ、フキ、クマササ	—	—
				鳥類	ミゾコイ、ササコイ、オシドリ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、サシバ、アオハヅク、ルリビタキ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、サンコウチョウ	カワセミ、ヤマセミ	カイツブリ、オシドリ	—	—
				両爬哺	イモリ、シュレーゲルアオガエル、カシカガエル、ジムグリ、ヤマカガシ、マムシ、ノウサギ、スミスネズミ、ニホンジカ	—	ヒキカエル、ニホンシカ	—	—
				陸上昆虫類	ムカシトンボ、クツワムシ、ハルゼミ、ミイデラゴミシ、キマダラモドキ、メスグロヒョウモン、クモガタヒョウモン、オオムラサキ	—	ミヤマカワトンボ、モンキマメゲンゴロウ	—	—

注釈) 特定種は、特定種凡例一覧参照

表 2.2.10 区間別環境要素と河川環境を特徴づける種(中流域～下流域)

流域区分	河川区分	環境要素		調査項目	生息生育する主な代表種				
					特定種	指標種			
						上位性	典型性	移動性	特殊性
中流域 ～下流域	中流部 ～下流部	水域	瀬・淵	魚介類	オオキンブナ、ヤリタナコ、アブラボテ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、イシドジョウ、スシシマドジョウ中型種、ナマス、メダカ、カワアナコ	—	キンブナ、オイカワ、カワムツ、ヤリタナコ、アブラボテ	トウヨシノボリ、シマヨシノボリ	イシドジョウ
				底生動物	モノアラガイ、ナガオカモノアラガイ、ミナミヌマエビ、ミヤマサナエ、キイロサナエ、マイコアカネ、ヨコミソトロムシ、ゲンシホタル、ヘイケボタル	—	ミナミヌマエビ	モクスガニ	—
		陸域	河原・水際の草地・草地・樹林帯	植物	コイヌガラシ、メノマンネンサ、カワラサイコ、カワラケツメイ、イヌハギ、アマツル、ミズマツバ、マメダオシ、シロネ、ミゾコウシュ、カワヂシャ、カワラハハコ、カワラニンジン、ヤナギモ、イトモ、ウシノシツベ、ハタカヤ		オオブサモ、ホサキノフサモ、アセナ、ミスハコベ、オオブタクサ	—	—
				鳥類	ササコイ、チュウサギ、オオタカ、ハイタカ、ハイロチュウヒ、ハヤブサ、ヒクイナ、タマシキ、コアシサシ、トラフズク、ホオアカ	アオサギ、チュウサギ	ヒクイナ、オオヨシキリ、キセキレイ	—	—
				両爬哺	イモリ、シユレーゲルアオガエル、カシカガエル、クサガメ、ヤマカガシ、マムシ、カヤネズミ	—	カヤネズミ、クサガメ、アマガエル	—	—
				陸上昆虫類	ヒトハリサトウムシ、ワスレナグモ、オオカワトンボ、ハネヒロエソトンボ、マイコアカネ、カワラバッタ、ショウリョウバッタモドキ、コオイムシ、ミイデラゴミムシ、コカブトムシ、シラホシハナムグリ、オオシロカミキリ、ニッポンヒゲナガハナバチ、クロツツトビケラ、ツマクロキチョウ	—	アシイトトンボ、ホ、クルマバッタ、カワラバッタ	—	—
	河口部	水域	干潟・淵	魚介類	ウグイ、メダカ、シロウオ、クボハゼ、ヒナハゼ、シモフリシマハゼ	—	ボラ、マハゼ	シロウオ	—
				底生動物	イシマキガイ、ウミナ、カワケチツボ、オオノガイ、ソトリガイ、ハクセンシオマネキ	—	アシハラガニ、チゴガニ、イトゴカイ、フトヘナタリガイ	モクスガニ	—
		陸域	水際の草地・草地	植物	アキノミチヤナギ、イソボウキ、ハママツナ、カスミサクラ、ハマゼリ、ハマサジ、マメダオシ、ウラギク、ケカモノハシ、オニシバ、ナガミノオニシバ、シオクダ	—	コウボウシバ、シオクダ、ハマヒルガオ、ハマコウ	—	—
				鳥類	チュウサギ、アカツクシガモ、ツクシガモ、トモエガモ、ミサコ、オオタカ、チュウヒ、ハヤブサ、ヒクイナ、ホウロクシキ、スズロカモメ、コアシサシ、ヒンズイ	ミサコ、カワウ	カンムリカイツブリ、カワウ、トモエガモ、ヨシガモ、ハマシキ、ユリカモメ	—	—
				両爬哺	ノウサギ、カヤネズミ	—	アマガエル、カナヘビ	—	—
				陸上昆虫類	ヒトハリサトウムシ、タンボオカメコオロキ、カワラバッタ、ニッポンヒゲナガハナバチ	—	ナガサキアゲハ	—	—

注釈) 特定種は、特定種凡例一覧参照

2.2.6 重信川を特徴づける場所

重信川を特徴付ける場所（重信川らしさを代表する箇所）としては、以下に示す 6 箇所が整理される。

表 2.2.11 重信川を特徴づける場所

保全上重要な環境	位置	環境の特徴
① 河口付近	0.0k～1.2k	河口干潟は、環境省シギ・チドリ類の重要渡来地域及び環境省の重要湿地 500 に指定されており、たくさんの水鳥たちが集まってくる。 河口周辺は四国のみずべ八十八カ所の「重信川河口」に選定されている。
② 石手川合流地点 であい 出合	3.0k 付近	支川石手川と重信川の合流地点であり、アブラボテ、タモロコなどが淵に生息している。
③ 中川原橋～重信橋 なかがわらばし しげのぶばし	6.0k～9.2k	瀬切れが頻発する範囲である。オオヨシキリやセッカの繁殖地である。
④ 重信橋付近	8.6k～9.8k	湧水が多くみられる地点であり、清冽な環境に生息するインドジョウなどが生息している。
⑤ 拝志大橋～上重信橋 はいしおおはし かみしげのぶばし	11k～14k	瀬切れが頻繁する区間である。周辺には、泉が多く存在している。
⑥ 砂防区間	17.2k～	上流の荒廃地のため砂防堰堤、床固工などが施工されている区間である。除ヶ堰堤 ^{よけえんてい} など国の登録有形文化財など見所がある。

2.3 特徴的な河川景観や文化財等

2.3.1 特徴的な河川景観

本川上流山間部は、美しい溪谷の景観が続く区間となっており、白猪の滝、唐岬の滝、白糸の滝などの景勝地が多くあり、松山市内から自動車ですぐの距離にあり、多くのハイカーなどが訪れる。また漣痕化石（一枚岩に刻まれた太古の波の化石）、山椒ヶ崖（屏風を立てたような絶壁）など特殊な景観がみられる。

本川上中流域は、広い川幅を有した瀬川の景観を呈し、堤内地には伏流水を水源とした多くの「泉」が分布し、全国名水百選の杖ノ淵など公園整備された名所もある。

石手川には、石手川ダム（白鷺湖）があり、大蛇伝説の湧ヶ淵の景勝地などがある。市街部においては高水敷の緑地帯が、都市部における潤いのある良好な空間を提供している。また支川砥部川には、中央構造線が横断しており、砥部衝上断層の露頭がみられる。

(1) 漣痕化石

7,500～6,500 万年前の波の化石、地質学上極めて貴重なもので、縦約 50m、横約 20m の一枚岩の表面に波の跡を残し、わが国の漣痕化石の中でも特筆の値するものである。また、太古の昔この地帯が海辺であったことを物語っている。



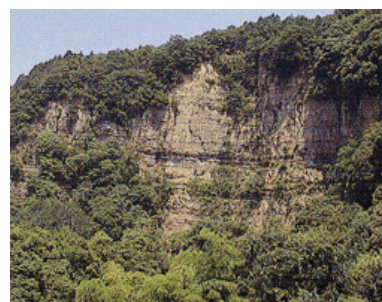
(2) 阿歌古溪谷

重信川の上流に位置し、原生林と奇岩碧流に恵まれた地域で、紅葉した樹々がさわやかな風とあいまって溪谷美を表現している。



(3) 山椒ヶ崖

国道 11 号線と高速道路が立体交差するあたりの山肌に露出する屏風を立てたような絶壁。この垂直に切り立った地層は、6,500 万年前に堆積してできた砂岩（和泉砂岩）の層で高さ約 50m、幅約 200m のスケールを誇る。



(4) 白猪の滝

皿ヶ嶺連峰のふもとにあり、高さ 96m の三段滝である。初夏の新緑、秋の紅葉など季節ごとに変化する景色が優れている。特に、冬の酷寒期には滝全体が氷の城の様になることが有名で、年間を通じて訪れる人の絶えない名所である。



(5) 白糸の滝

皿ヶ嶺連邦の山腹にある落差約 20m の滝。滝は 2 段になって白い絹糸のように流れ落ち、優雅な面影を見せる。新緑や紅葉の頃の美しさもさることながら、冬は凍結し、氷の芸術となる。



(6) 除ヶ堰堤

昭和 10 年に完成した堰堤は、重信川下流域の土砂災害を防ぐために造られ、瀬戸内の島石を使った石組は圧倒的な造形美を誇っている。国の登録有形文化財に指定されている。



(7) 三ヶ村泉

旧牛^{うしぶち}渚・南^{みなみの}野田・北^{きたの}野田の三つの村が共同で 1790 年に開発したことから、その名がつけられた。湧水量が豊富で、景観的にも生態的にも、非常に良好な自然環境を形成している。



(8) 赤坂泉

重信川の伏流水が湧き出る泉は、鏡泉とも呼ばれる名水である。現在は公園として整備され、桜の名所としても親しまれている。



(9) 杖ノ淵

大かんばんの年に一杯の水をもらったお礼に、弘法大師こうぼうだいしが杖をついて水を出したという言い伝えのある湧水として有名で、1985 年、環境省の名水百選に認定されている。



(10) 白鷺湖

昭和 62 年、「森と湖に親しむ旬間」を機に一般公募から命名された。上空からダム湖を見ると白鷺が羽を広げた姿に似ている。



(11) 砥部衝上断層

国指定の天然記念物「砥部衝上断層」は、数千万年前の地殻運動によってできた中央構造線上の逆断層である。古い地層が新しい地層の上に重なっており地質学上貴重な資料である。この断層と砥部川を利用して公園化され、人々の憩いの場となっている。



(12) 河口部の干潟・砂州

やわらかな光と面影やさしい砂の丘、こんもりとしたアシの森が醸し出すのんびりとした風景が広がる。環境省のシギ・チドリ類の重要渡来地域及び環境省の重要湿地 500 にも指定されており、多くのシギ・チドリの渡りの中継地となっている。



2.3.2 重信川流域の文化財、歴史

温暖な気候風土と豊かな自然に恵まれた重信川流域には、個性ある文化が育まれてきた。とくに近代に至り正岡子規をはじめ多くの俳人を輩出し、松山市は象徴的に“俳都”とさえ呼ばれている。

毎年9月には子規顕彰全国俳句大会が催され、句碑も松山市を中心に200基以上分布しているといわれる。また、流域には歴史的な遺産としての文化財、遺跡、名勝等も数多く分布している。日本の平山城を代表する松山城、全国屈指の桜門のある石手寺、子規の旧家を模した子規堂、道後温泉本館等、全国的に知名度の高いものが多く、いずれも観光資源として重要な役割を果たしている。

さらに、道後平野の開発の歴史を現在に伝える遺跡・史跡等も多く、特に重信川に関連の深い泉は、人と自然との関わりの中から生まれた地域の文化的、技術的な遺産ともいえる。

表 2.3.1 市町別国及び県指定文化財

区分		有形文化財		民俗文化財		史跡		天然記念物	
現在の区分	合併前の区分	国指定	県指定	国指定	県指定	国指定	県指定	国指定	県指定
松山市	松山市	28(3)	29	－	2	3	12	1(1)	1
	北条市	1	15	－	1	－	3	1	3
	中島町	－	2	－	－	－	－	－	1
東温市	重信町	－	1	－	1	－	－	1	1
	川内町	2	1	－	－	－	1	1	1
松前町	松前町	－	－	－	－	－	1	－	－
砥部町	砥部町	－	1	－	－	－	1	1	－

※注1) カッコ内は内数で国宝、特別天然記念物を表す。カワウソは松山市の天然記念物（国指定）に計上。

注2) 民俗文化財、天然記念物については多地域にわたるものがある。

出典：愛媛県統計年鑑（平成17年版）

(1) 文学散策ルート

「坊っちゃん」は夏目漱石が松山中学の教師時代の生活をもとに書いた小説。松山市内には、小説ゆかりのものや場所が今も残り、古き良き明治の時代を懐かしむことができる。

司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」は、「明治」という時代を背景に、その時代を前向きにのびやかに生きた、松山出身の三人の主人公、正岡子規、日露戦争の勝利の立役者、秋山好古・真之兄弟にスポットをあて、その生きざまを鮮烈に描いた作品である。

松山ゆかりの著名な俳人、正岡子規、高浜虚子、種田山頭火、柳原極堂、河東碧梧桐、中村草田男、石田波郷などを輩出し、「俳句の里」と呼ばれる由縁といえる。



夏目漱石



正岡子規

(2) 松山城（松山市）

松山城は、標高 132m、周囲約 4km の独立丘陵勝山^{かつやま}を中心に築かれた平山城である。慶長 7(1602)年、伊予正木^{いよまさき}（松前）城主加藤嘉明^{かとうよしあき}が、20 万石の居城として築城に着工し、嘉明が会津若松へ転封後の寛永 4(1627)年、第 2 城主蒲生忠知^{がもうただちか}によって完成されたと伝えられている。

現在、史跡に指定されているのは、本丸、二之丸、三之丸跡を中心とする地域で、本丸跡には天守をはじめとする 21 棟の建造物が国の重要文化財に指定されている。



(3) 道後温泉本館（松山市）

道後温泉本館は、神の湯^{かみ ゆ}と霊の湯^{たま ゆ}という二つの浴室と、それぞれの休憩室など、4つの入浴コースと皇族専用の又新殿^{ゆうしんでん}からできている。

神の湯本館棟の歴史がいちばん古く、完成したのは明治 27 年、また、新殿は明治 32 年にお目見えした。明治時代の温泉施設が残っているのは日本でここだけである。

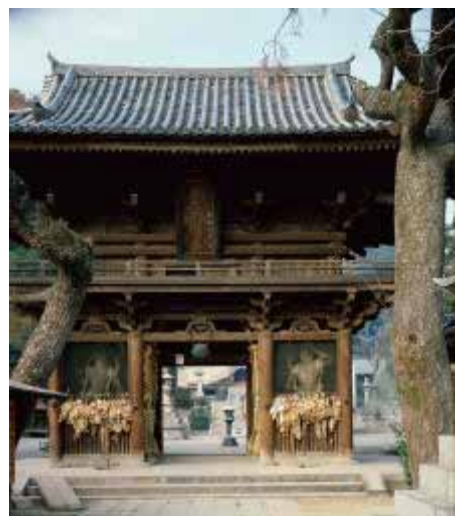
平成 6 年 12 月には、近代和風建築としてのすばらしさと保存状態のよさから、国の重要文化財に指定されている。



(4) 石手寺（松山市）

石手寺は真言宗豊山派^{しんごんしゅうぶざんぱ}の古刹で、四国八十八か所 51 番札所となっている。寺伝によると、聖武天皇^{しょうむてんのう}の神亀 5(728)年^{ちよくせん}に勅宣^{おし}によって大領・越智玉澄^{おちたまずみ}が伽藍^{がらん}を創建したこととなっている。

石手寺仁王門は国宝文化財に指定されている。



(5) 萬翠荘・愚陀仏庵（松山市）

旧松山藩主久松家、第 15 代当主久松定謨が、松山で住む邸宅として欧米外遊帰朝直後に建築家木子七郎に設計建築させた鉄筋コンクリート造の建物であり、大正 11 年に竣工した。

現在は、愛媛県立美術館分館として定期的に特別展が行われている。また、北側山手には、子規と漱石が同居した愚陀仏庵が復元されている。

愚陀仏庵



萬翠荘



写真提供松山市

(6) 豊島家住宅（松山市）

「井門の八棟造」と人々から呼ばれ親しまれてきた、豊島氏所有の住宅であり、松山市井門町の北西にある。池庭はソテツの寄せ植えを中心に、大きい池と細い流れをもつ回遊式平庭となっており、象徴木のソテツを鑑賞木として近くに植えている。これは、築山に心字池の発想を入れ替えており、桃山時代の流れを多分に取り入れた珍しいものとなっている。国の重要文化財に指定されている。



写真提供松山市

(7) 松前城跡（松前町）

正木（松前）城の正確な築城年代は不明であるが、古くは 1336 年（建武 3 年）に『大山積神社文書』に「松前城」の名で既に文献上に記されている。1596 年（慶長元年）に加藤嘉明が淡路志智城より 6 万石で松前城に入る。この時、伊予川を改修して城郭や港を新たに整備している。1600 年（慶長 3 年）、関が原の戦いに加藤嘉明は東軍に従い出陣、城を留守にしているところを毛利氏三千の兵が河野氏残党と共に松前城を攻めるが、佃十成らがこれを見事に撃退する。関が原での功により嘉明の石高は 20 万石に増加、新たに松山城を築き本拠地とした為、松前城は廃城となった。



(8) 楽頭らくとう（東温市山之内麓やまのうちふもと）

毎年 8 月 14 日夜に行われる盆行事で、古来より麓城主の教養や雨乞いに用いた念仏踊りである。単純素朴な踊りであるが、県下でも珍しい民俗芸能である。県の無形民俗文化財に指定されている。



写真提供東温市

(9) 北吉井のビヤクシンきたよし（東温市樋口ひぐち）

根廻り 7m、地上 1m で二幹となり、それぞれ目通り周囲 4m、樹高は 20m に達し、枝張りは径 12m にもおよび、代表的巨樹の一つである。国の天然記念物に指定されている。



写真提供東温市

(10) 砥部焼（砥部町）

砥部焼とは、砥部の里より産する陶石を原料に作られた磁器の器。やや厚手の白磁に呉須ごすを含んだ絵筆を勢いよく走らせ、独特の大柄の草花文が生まれる。

簡素化された絵柄は先達の賜物であり、その飾り気のない筆遣いは、何気ない安堵感を日常の生活にかもし出している。白磁でも冷たさがなく、しっかりとした手取りの重さは、暮らしに根付いた親しみやすさを使う人に与えている。



2.3.3 重信川にまつわる渇水・洪水遺産

(1) 雨乞い踊り（松前町）

松前地区の雨乞いは、参籠・踊りも行われたと思われるが、大干ばつには、水神に汚れたもの、嫌いなものをかけ、怒らせ、あばれて雨を降らせてもらう方法がとられたものであり、「御面 雨乞い」行事である。

この御面雨乞いは、藩政時代、東温市の野田・牛渕の両三嶋宮（徳威三嶋宮・浮嶋神社）と松前町浜との間で行われた。



(2) 雨乞い三面（東温市）

室町時代～鎌倉時代の面がほぼ完全な形で残されている。

御面は、推古天皇21年(613)8月15日、乎智益躬が大三島大明神を祈願し、舞樂を奉納した時、海上に小船が出現、しらべてみたところ舟中に人なく、3個の古面が置かれていた。



写真提供東温市

乎智益躬は奉納舞樂の賜と大変喜び、宇城名郷久米部王楯明宮に奉仕した。その後、兵火を避けて河之内山中にうつし、さらに雨瀧三嶋宮にうつし、享保17年(1732)5月、寺社奉行の命により、野田・牛渕両三嶋宮に隔年遷座するようになった由緒深い古面である。

(3) 蒙水害復興記念碑（松前町）

昭和18年7月の水害の復興を記念するために素鷲神社の境内に建てられた。



2.3.4 重信川沿川の観光、イベント

(1) 松山春まつり（松山市）

「お城まつり」「道後温泉まつり」からなる春最大のまつり。「お城まつり」では、桜の咲き誇る松山城を舞台に大名行列が華麗にねり歩くほか、野球拳全国大会や少年剣道大会、茶会などが行われる。また「道後温泉まつり」では、湯の町らしい情緒が味わえる。



写真提供松山市

(2) 松山港まつり三津浜花火大会（松山市）

四国4大まつりとして昭和41年に始まった。毎年8月11日から13日に行われ、前夜祭に松山港の三津浜で花火大会が催される。



写真提供松山市

(3) 松山秋祭り（松山市）

豊穣の喜びを込めて、各地域でさまざまな祭事が行われるが、なかでも「もーてーこい、もーてーこい」の掛け声とともに、荒々しくみこし同士をぶつけ合うさまが壮観である。有名な厳島神社いつくしまじんじやの鉢合わせは10月5日の夜と7日の朝・夜に、また、道後温泉駅前や阿沼美神社あぬみじんじやの境内で激しくぶつかり合う。



写真提供松山市

(4) さくらまつり（伊予市）

県立自然公園内の大谷池おおたにいけを中心に桜の季節にさくらまつりが開催され、郷土芸能などのイベントでにぎわう。



写真提供伊予市

- (5) ^{ごしきひめかいひんこうえん}五色姫海浜公園サマーフェスティバル（伊予市）
南国ムードが漂い、白砂の美しいビーチが広がる
人気のスポット「五色姫海浜公園」で、7 月下旬に
開催される“サマーフェスティバル”。ビーチバレー
大会、潮干狩り、釣り大会、お楽しみ抽選会などが
あり、若者や家族連れの歓声が終日飛び交う。



写真提供伊予市

- (6) ^{よこがわらんげつさい}横河原観月祭（東温市）
地元横河原商工連盟の主催で、毎年 8 月の最終土曜日
に行われるこのイベントは、近年県下を代表する夏祭り
として育っている。沿道には約 80 軒もの夜店が並び、
会場は盆踊りや芋たきで賑わう。大迫力の花火は、毎年
たくさんの方が訪れる。



写真提供東温市

2.4 自然公園等の指定状況

2.4.1 自然公園及び自然環境保全地域

重信川流域には、2つの県立自然公園が指定されている。自然豊かなこの地域は、キャンプやハイキング等を通じて、四季折々、地域の人々に親しまれている。

表 2.4.1 重信川流域の自然公園

公園名	指定年月日	面積 (ha)	関係市町村	特 色
奥道後玉川県立 自然公園	S37. 3. 9	7, 750	松山市、今治市	奥道後および鈍川に湧出する鉱泉群と石手、蒼社両溪谷の変化に富んだ溪谷美と高縄山をはじめ区域内諸峰よりの展望
皿ヶ嶺連峰県立 自然公園	S42. 1. 25	3, 095	伊予市、東温市、松山市、砥部町、久万高原町	皿ヶ嶺連峰の山岳、森林の景観と山ろく一帯の溪谷美、人造湖、瀑布など特異な展望景観

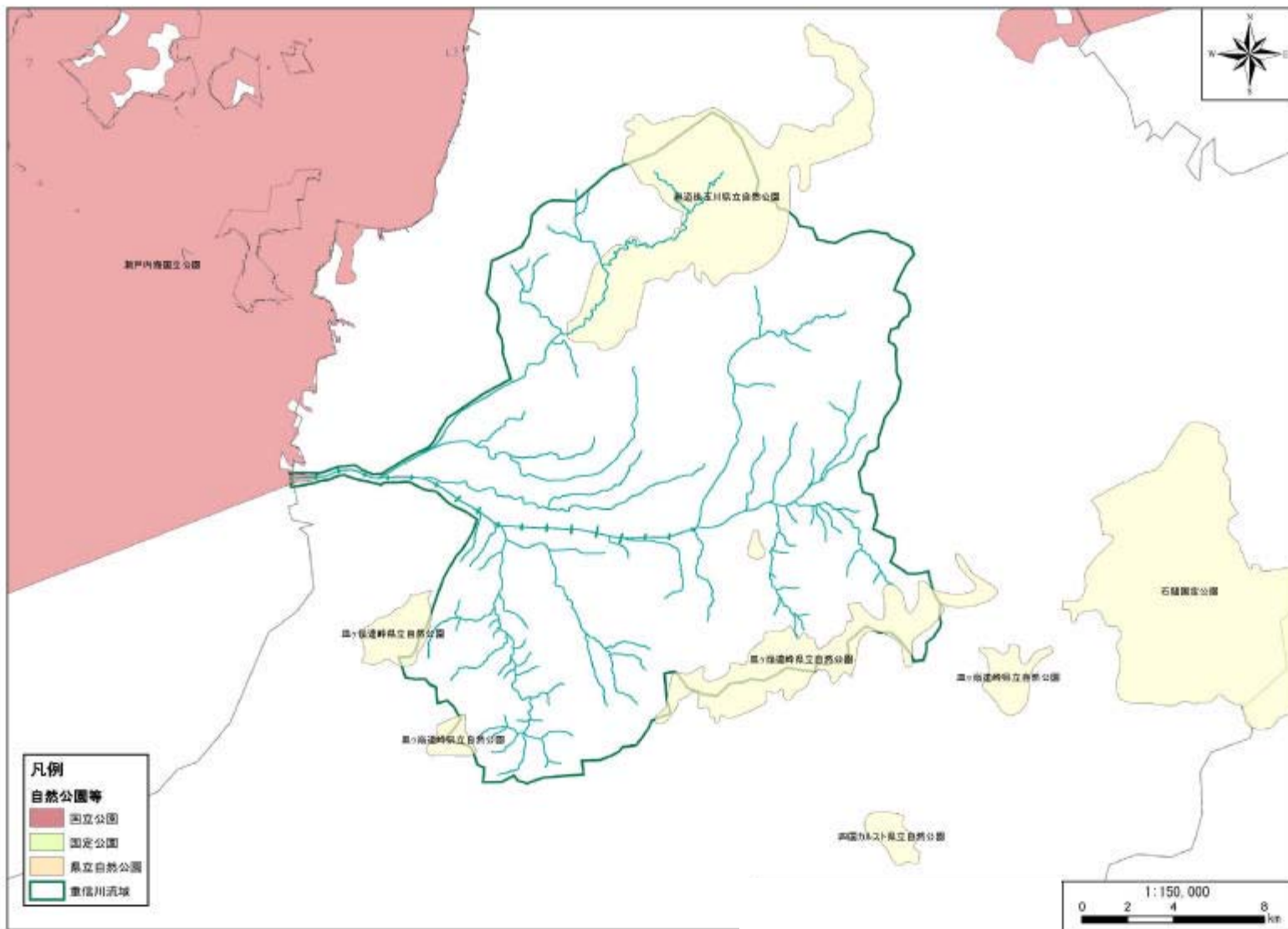


図 2.4.1 重信川流域の自然公園等指定状況

2.4.2 鳥獣保護区

重信川流域には、県設鳥獣保護区が7箇所指定されている。

表 2.4.2 重信川流域の鳥獣保護区 (平成16年11月現在)

名称	指定期限	面積 (ha)
奥道後鳥獣保護区	～H26.10.31	1348
谷上山 ^{たがみさん} 鳥獣保護区	～H25.10.31	401
皿ヶ嶺 ^{さらがみね} 三坂峠 ^{みさかつげ} 鳥獣保護区	～H25.10.31	540
下伊台 ^{しもいだい} 道後山鳥獣保護区	～H22.10.31	900
銚子 ^{ちようし} ダム鳥獣保護区	～H24.10.31	175
松山城鳥獣保護区	～H19.10.31	62
千足 ^{せんぞく} 宮内 ^{みやうち} 鳥獣保護区	～H26.10.31	17

参考：鳥獣保護区等の規制について

鳥獣の保護繁殖を図るため、鳥獣保護法に基づき鳥獣保護区が設定されている。「鳥獣保護区」は、環境大臣が設定するもの（国設鳥獣保護区）と都道府県知事が設定するもの（都道府県設鳥獣保護区）の2種類があり、鳥獣保護区の中には「特別保護地区」を指定することができる。

「特別保護地区」は、上記鳥獣保護地区内に指定され、地区内で工作物の設置、水面の埋め立て、立木の伐採といった行為を行うためには、環境大臣又は都道府県知事の許可を受けなければならない。

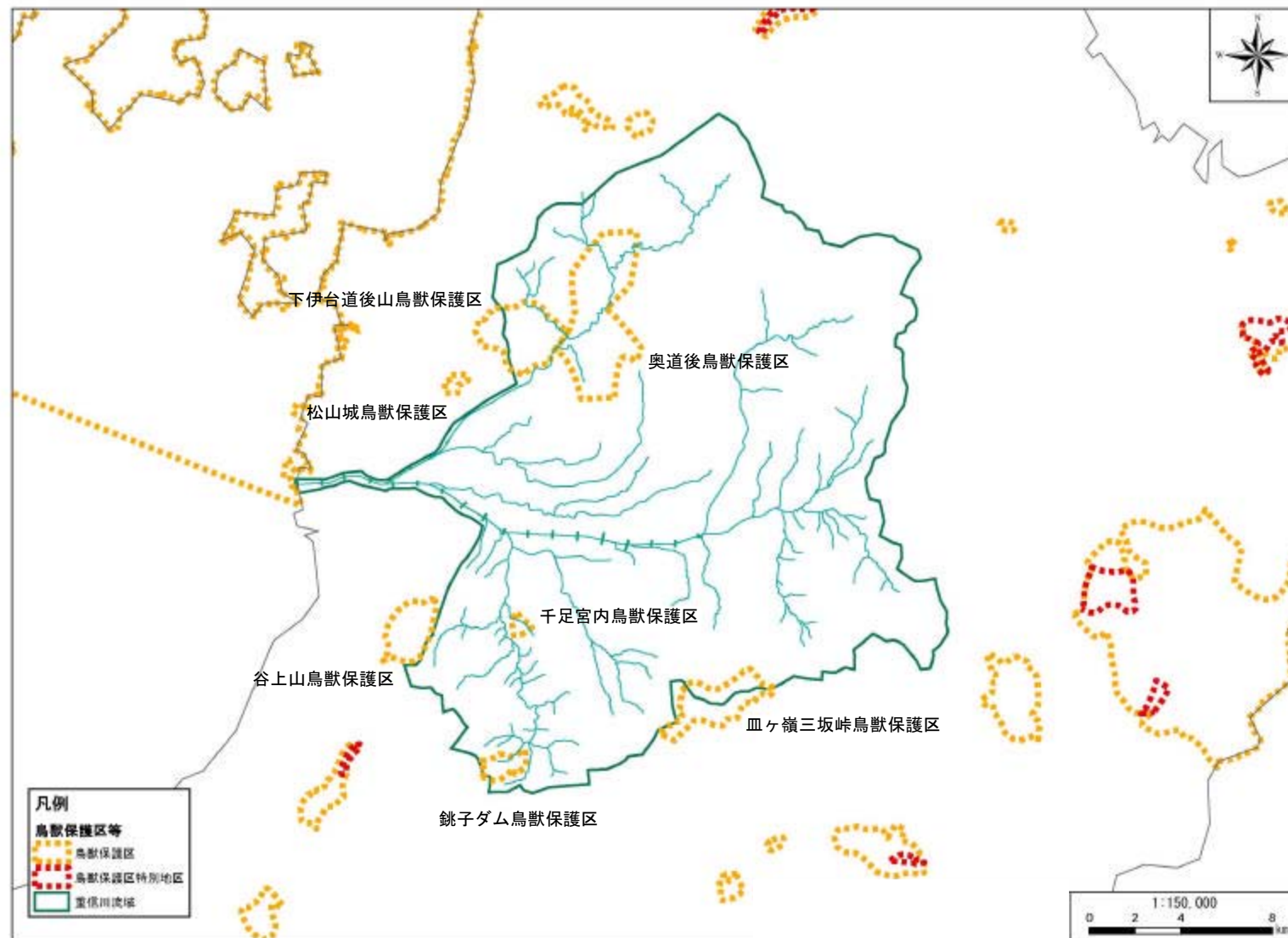


図 2.4.2 重信川流域の鳥獣保護区指定状況